

2013年4月1日

学 長 殿

文学部長
林 義勝

明治大学名誉教授推薦書

被推薦者名： 長岡 顯
(2013年3月31日 文学部専任教授退職)

推薦理由：

長岡顯先生は、1971年4月に本学文学部に専任助手として採用され、以来42年余の永きにわたり、本学の教育・研究に力を尽くされた。

先生の専門は、人文地理学のなかの経済地理学分野、特に農業・農村研究及び地方都市研究であり、地域的には、日本国内のみでなく、海外、特にスペインでの研究に重点が置かれた。

先生の研究は、第一に、第一次産業と第二・三次産業あるいは農村と都市という対立・対抗関係にあり、資本主義経済発展のもとで不可避免的に顕在化する第一次産業および農村の諸問題を、産業論あるいは地域論として統合的に分析するための基礎視角を示した地理学における先駆的な研究として評価される。第二に、長岡先生の30年にわたるスペイン研究であるが、先生が取り組みはじめた1980年代初頭には、この分野の研究は質量ともにきわめて限定的な状況にあった。こうした中で、スペインと日本の比較地域文化史的な研究成果は、地理学のみならず、広く人文・社会科学分野における国際地域比較研究の道標として、斯学のその後の発展に大きな足跡を残した。1994年には、文部省科学研究費総合研究(A)「ECC加盟とスペイン経済」(代表者：長岡顯)が採択され、本学を拠点とする大型プロジェクトを主導し、本学の学術研究の向上に貢献した。

学内役職としては、文学部の学生部員、一般教務主任、大学院文学研究科委員長等を歴任し、全学的には副学生部長として、大学紛争により荒廃したキャンパスの正常化に力を尽くした。また、学外においては、日本地理学会評議員、経済地理学会評議員・代表幹事など地理学関係学会で活躍し、国土庁委員会委員、八潮市史編纂委員など国や地方自治体の政策や文化事業にも参画した。

以上のように、長岡顯先生は専門とする地理学の領域における豊富かつ優れた学術的業績を達成し、学内外の教育研究にも多大な貢献をしている。よって、ここに本学名誉教授としてふさわしいと判断し推薦するものである。

以上

添付書類

- 1 履歴書
- 2 業績書